

# 大菩薩嶺山行報告

## ——色っほさが漂う大菩薩嶺と小金沢山～黒岳尾根縦走紀行——



(振り返れば富士山の雄姿、唐松尾根にて)



(甲府盆地越しの南アルプス、唐松尾根にて)

【山城】山梨県:大菩薩連嶺(大菩薩嶺・小金沢山・牛奥ノ雁ヶ腹摺山・黒岳・白谷丸)

【日程と天気】2019年10月5日(土曜、晴れ)～6日(日曜、曇り)

【メンバー】CL 菊池、池田(継)、神崎、高山(記録)

【行程】



1日目	山行	休憩	合計
	2時間54分	42分	3時間36分
S	上日川峠		10:56
	11:24 福ちゃん荘		11:28
	12:49 雷岩		12:59
	13:08 大菩薩嶺		13:13
	13:20 雷岩		13:26
	13:35 神部岩		13:48
	14:04 妙見ノ頭		14:07
	14:10 賽ノ河原		14:11
	14:16 観不知ノ頭		14:17
	14:33 大菩薩峠		
	14:34 宿泊地		G

2日目	山行	休憩	合計
	6時間34分	32分	7時間6分
泊	熊沢山		07:05
	07:13 石丸峠		07:14
	07:25 天狗懸山		07:25
	07:39 銀平		07:40
	08:31 小金沢山		08:43
	09:24 牛奥ノ雁ヶ腹摺山		09:36
	10:21 川胡桃沢ノ頭		10:22
	11:12 黒岳		11:20
	11:40 白谷丸		11:41
	12:16 瀧ノ沢峠		12:16
	13:11 瀧ノ沢峠登山口		13:12
	14:13 やまと天目山温泉		
	14:13 ゴール地点		G

(2日目は正確には小屋 6:45 の出発です)

## 【内容記録】

「電車で行って」「憧れの山小屋で一泊して」「百名山の大菩薩嶺に登って尾根コース縦走を楽しむ」というキャッチフレーズを募集要項で見た途端、思わず「ヤバすぎる！」と  
思ってしまった。実際行ってみて、リーダーの熟考を重ねた山行計画のすばらしさ、そして山に我が身を放り込んだ醍醐味、.....、さらに、さらに今回の山がオヤジ4人に見せつけてくれた色っぽさ（「Sexy」という響きを買いそうな表現を新進気鋭な政治家に譲ることにして、笑）も含めて、全部山行記録に残しておこうと思います。ちなみに、色っぽさは紅葉の鮮やかなところを指すことではなく...、「Yeah, You know what I mean!」（笑）

JR 中央線の甲斐大和駅に降りて、バスに1時間弱揺られて（登山ザックを抱えた乗客で満員、ギュウギュウ詰めで窓から身を投げ出されずに済んだのは良かった！笑）上田川峠の登山口に着いたのは、10:45頃だった。天気が申し分ないほどよかった。爽やかな山林を歩き抜いて20分ほど福ちゃん荘に到着、休憩無しで上へ向かうが、ここで今夜の宿の介山荘にダイレクトに通ずる大菩薩峠への道ではなく、左の唐松尾根を通るルートを取って雷岩へと登っていく。



「山でも岳でもなく名前に“嶺”が付く百名山はここだけだよ」と尾根道を上りながらリーダーから聞くと、なぜか“嶺”の字からヴィーナス像の美しいラインが頭に浮かび上がった。

色っぽいポイント その1

「嶺」の付く名前のユニークさとその美しいシルエットへの連想

晴れ渡った秋空のもと、唐松尾根からの富士山と甲府盆地越しの南アルプスのグレートビューは実に感動的で、正真正銘の大菩薩嶺の素晴らしい眺望の代表格だった（迷わずに拙文のタイトル画像にした）。

雷岩周辺に到着すると、ピークを成した岩場の上にもその周辺の平な広場にも人だかりとなっており、週末の大都市の繁華街一角の歩行者天国を彷彿させる賑やかさだった。素晴らしい眺望が効く場所なので、ハイカーたちにとってランチを頼む格好の良いところだ。富士山と面向かって、コーヒーで乾杯！っていうのも悪くないな。しかし、わがパー

ティーは別の目当て（小屋でのランチタイム）があるので、記念撮影をしてすぐ大菩薩嶺へと急いだ。



（賑やかな雷岩）

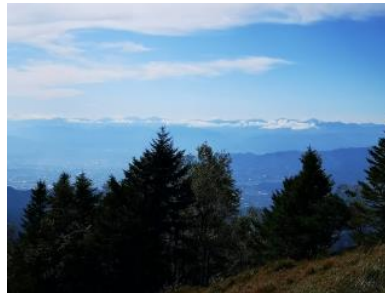


（眺望の良い雷岩にて）



（眺望の無い大菩薩嶺頂上）

雷岩からなだらかな大菩薩嶺頂上へのピストンで 30 分間とそれほど時間がかからなかった。雷岩から介山荘のある大菩薩峠へと下る稜線歩きもまた、富士山と南アルプスへ大展望をほしいままにする楽しい時間だった。妙見ノ頭（展望が良い）・賽ノ河原（幅広の峠?）・親不知ノ頭（大菩薩峠までの最後の登り返し）を経て、2:30 に介山荘到着。青空のもと、岩の上でリーダーから分けてくださった金麦はゴールドの味だった（ちょっとめるかったけど、笑）。ありがとうございました。



初日 3 時間半の歩きを終え介山荘にチェックイン、小屋の売店で入手したキンキン冷えたビール、担ぎ上げたワインとおつまみで山男たちの「アフタヌーンティー パーティー」を開いて、山の話して盛り上げた。ふっと気づけばガスが峠あたりに流れ込んできた。翌日の日の出鑑賞や 8 時間尾根歩きへの天気の影響がみな気になった。今回お世話になった介山荘に宿泊した感想だが、実に素晴らしかった！眺望の良い個室を与えられたし、カレーライスをメインディッシュの晩ご飯と翌日朝食のなめこ汁とも旨かった。それに小屋ご主人の簡潔な情報伝達（必要最小限）、小屋を切り盛りするご一家皆親切で礼儀正しく、居心地の良い雰囲気だった。



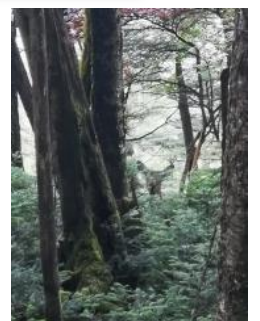
翌日 6 日の朝小屋を出発した時点（7 時前）こそ予報通り晴れていて、8 時間の縦走コースで何とかクリアなままと期待していたが、やや残念なことにこの後ほぼガスや雲に包まれて展望に恵まれることは無かった。しかし、山の色っぽさがたっぷり漂う 1 日でもあった。

介山荘から出発して間もなくガスが周り一帯に立ち上り、30分間ほどの下りで石丸峠に到着した時、数十メートル先の木々が煙霧の中で見え隠れする雰囲気だった。途中でクマちゃんに噛まれて樹幹が裸になったところを目撃したが、幸い本当のクマちゃんに遭遇することは無かった。とは言え、昨日の大菩薩の賑やかなコースとガラリと変わって、小金沢連稜のハイカーの姿がまばらで(実際8時間の縦走で出会ったハイカーがわずか四五パーティーだった)、薄暗い林の中を行くわがパーティー以外ほとんど見当たらない。熊鈴を無意識に確認し鳴らして歩いた。



#### 色っばいポイント その2

コケや植物、陰柔の美で山の男たちを虜にする



#### 色っばいポイント その3

森の木々で身を隠すも、可愛らしく視線を向けられる小鹿

小屋を出て2時間弱で本日一つ目の山である小金沢山に到着、10分間ほど休憩した後、稜線続きの2座目の山である牛鼻/雁ヶ腹摺山へと向かう。森の中に一瞬の晴れ間から光を差して、その貴重な輝きに嬉しくなり、樹皮が無く裸になった枯れ木の姿が独特な魔力を感じずに居られなかった(笑)。

#### 色っばいポイント その4

スベスベに輝く枯れ木が独特な魔力を放つ



牛奥／雁ヶ腹摺山で10分間の休憩後、さらにアッパダウンを経て本日最後のピーク黒岳に11:10に到着。約1時間半のコース上、草紅葉や峠っぽい開けた野原と変化を富んだ景色が長時間歩行した疲れを癒してくれた。



色っぽいポイント その5

神秘的な霧と雲に包まれ、見え隠れする山容

黒岳から1本調子で下り、1時間ほどで湯ノ沢峠到着。駐車場と良く掃除手入れをした公衆トイレがある。若干分かりづらいが、車道ではなく沢沿いに下っていくほうが目的地のやまと天目山温泉への道。沢に沿って数回左岸右岸に徒渉し下って1時間、湯ノ沢登山口に到着して、さらに1時間舗装した林道を歩いて、ゴールイン。最後の林道がなが～くなが～く感じた！お疲れ様です！！こんな時こそ汗を流してくれる温泉が最高に感じて、ありがたい！！バスで10分ほどで甲斐大和駅、そして電車に乗りついで帰葉、ちょうど我が家の晩御飯に間に合う段取りだった。



記録 高山